（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財務分析Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
田中　哲	時間: 場所:	対面授業

〔科目の概要〕

「財務分析Ⅱ」の講義は、「財務分析Ⅰ」を基礎として、「収益性」「安全性」などの各指標を用いた分析技法をより深める形で展開される。「財務分析Ⅰ」では主として、「個別財務諸表」を分析対象としたが、「財務分析Ⅱ」では、「連結財務諸表」分析も視野に入れて講義を行う。

「連結財務諸表とは、複数の企業で構成される企業集団を、1 つの企業であるかのようにみなして作成する財務諸表」（大阪商工会議所『ビジネス会計検定試験　公式テキスト【第 5 版】』中央経済社、2020 年、21 ページ）である。企業集団を構成する企業の間では、一定の「支配従属関係」が存在する。ここで、「支配従属関係」とは、ある企業＜A 社＞が、他の企業＜B 社＞の意思決定機関を実質的に支配しているとき、A 社を親会社、B 社を子会社といい、この 2 社の関係をいう（（参考文献:滝沢ななみ『スッキリわかる日商簿記1級　企業結合・連結会計編』）。

講義は、教科書に沿って次のように展開する。はじめに、分析対象である連結財務諸表について、その構造と構成について学修する。財務分析は、「財務諸表分析」でもあることを心にとどめておいていただきたい。次に、分析技法としての百分比財務諸表と時系列分析について学ぶ。受講者は自ら分析を行うことを念頭に置いていただきたい。

さらに、「財務分析Ⅰ」でも学んだ事項である、「安全性」及び「収益性」について学修する。財務（諸表）分析の中心課題であるので、十分に理解を深めてほしい。「キャッシュフロー分析」がそれに続く課題である。引き続き、「連単倍率」、「セグメント情報の分析」について学修する。

さらに、「損益分岐点分析」について学修する。「損益分岐点」とは、「収益と費用の額が一致する売上高（あるいは操業度）」をいい（大阪商工会議所『前掲書』、267 ページ）、企業の採算性を探る手法を「損益分岐点分析」という。最後に、株主の視点からの分析である、「1 株当たり指標」と労働生産性を図る重要指標である「1 人当たり指標」を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「財務分析」の主体は、大きく分けて 2 種類ある。企業外部者と企業内部者である。

「内部者」である「経営者」は、経営政策の策定のために、「従業員」は給与等の支払能力に関心を有する。

「外部者」である金融機関は、信用分析（財務分析の起源はこのことにあるといわれている）を行い、支払能力分析や流動性・安全性の判断を行う。現在と将来の株主である「投資者」にとっては、みずからの投資がどれくらいのリターンをもたらすのかについて関心を有する。そのため、収益力、配当率、株価、投資純資産額、株価収益率などを分析する。中央政府は景気動向の把握や産業政策の立案に、課税当局は税負担能力の把握のため、財務内容に関心を有する。

経済や経営について学んでいる「大学生」にとっては、将来の就職先である業界分析のため、その代表的企業を分析することにより、定量的な資料を得ることができ、「就職活動」への役立ちが期待される。また、「有価証券報告書」を読み解くことにより、定性的資料を得ることも可能となる。

他の科目との関連では、財務分析の内容が、「財務会計」の基礎知識を必要とし、採算性分析については「管理会計」の知見を必要とする。総じて「会計学」の総合的知見が要求される。また、企業経営全般を分析対象とするため、「経営学」とも深い関連を有している。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

＜中間目標＞

主要財務諸表である、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書についての理解を基礎として、収益性・安全性などの諸指標についての分析を行うことができる。

＜最終目標＞

「ビジネス会計検定 2 級」レベル程度の「財務分析に関する知識・分析手法等」を習得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

○講義開始時に、本講義の概要及び成績評価につき、説明をする。

○講義中に配布する「財務分析Ⅱノート」を改善する。

〔教科書〕

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト 2 級［第 5 版］』中央経済社

〔指定図書〕

指定しない

〔参考書〕

指定しない

〔前提科目〕
「会計学基礎論」「財務分析Ⅰ」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
期末試験の得点に基づいて成績評価を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

評価	試験得点
A	80 点以上
B	80 点未満～70 点以上
C	70 点未満～60 点以上
D	60 点未満～50 点以上
F	50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
○講義はシラバスに沿って行う予定であるが、諸事情により、シラバス通り進行しない場合もあることを了承願いたい。
○講義では、第 1 回目を除き、毎回前回の復習を行う。
○講義中の私語は「厳禁」であり、それに類する講義進行を妨げる行為も同様である。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表(1) 内　容:連結財務諸表とは何か、連結の範囲、連結財務諸表の作成方法 教科書:第 2 章第 1･2･3･4 節、配布資料
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表(2) 内　容:連結貸借対照表 教科書:第 3 章第 1･2･3･4 節、配布資料
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表(3) 内　容:連結損益計算書(1) 教科書:第 4 章第 1･2 節、配布資料
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):連結財務諸表(4) 内　容:連結損益計算書(2) 教科書:第 4 章第 3･4･5･6･7 節、配布資料
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):百分比財務諸表と時系列分析 内　容:百分比財務諸表と時系列分析 教科書:第 9 章第 2 節、配布資料
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):安全性分析(1) 内　容:安全性分析(1)－安全性分析とは何か、短期的支払能力の分析 教科書:第 9 章第 3 節、配布資料
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):安全性分析(2) 内　容:安全性分析(2)－長期の安全性分析 教科書:第 9 章第 3 節、配布資料
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):収益性分析(1) 内　容:収益性分析(1)－収益性分析とは何か、資本利益率、資本利益率の分解(1)…売上高利益率の分析 教科書:第 9 章第 4 節、配布資料
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):収益性分析(2) 内　容:収益性分析(2)－資本利益率の分解(2)…回転率の分析 教科書: 第 9 章第 4 節、配布資料
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): キャッシュフローの分析(1) 内　容:キャッシュフローの分析(1)－キャッシュフローの分析とは、フリーキャッシュフロー、営業キャッシュフローマージン 教科書: 第 9 章第 5 節、配布資料

第11回	テーマ(何を学ぶか)： キャッシュフローの分析(2) 内　容:キャッシュフローの分析(2)－自己資本営業キャッシュフロー比率、営業キャッシュフロー対流動負債比率、設備投資対キャッシュフロー比率 教科書: 第9章第5節、配布資料
第12回	テーマ(何を学ぶか)： セグメント情報の分析・連単倍率・規模倍率 内　容:セグメント情報の分析・連単倍率・規模倍率 教科書:第9章第6節、第7節、配布資料
第13回	テーマ(何を学ぶか)：損益分岐点分析 内　容:損益分岐点分析－損益分岐点とは何か、変動費と固定費、損益分岐点指標など 教科書: 第9章第8節、配布資料
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 1株当たり・1人当たり分析 内　容: 1株当たり分析－1株当たり当期純利益、株価収益率、配当性向など 教科書:第9章第9節、第10節、配布資料
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 連結財務諸表分析の実践 内　容: 総合問題 教科書: 第9章全体
試　験	筆記試験の実施